

道心



禅昌寺通信「道心」第45号

編集 日光山禅昌寺「道心」編集室

発行 平成 28 年 2 月 8 日

〒732-0002 広島市東区戸坂山根 3-2-7

TEL 082-229-0618 FAX 082-229-0822

E-mail: zenshotaiken@gmail.com

ホームページ <http://zenshoji.org/>

仏暦2560年

旧正月元旦

(西暦2016年2月8日)

新春を迎え 皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、三年に亘り準備を進めて

まいりました当山開創四百年記念

行事が開催されました。

慶讃法要当日は晴天に恵まれ、各

記念行事には大勢の参加者が有り、

心のふれあいと絆を深める大変有意

義な行事となりました。また、記念

事業として建立された観音菩薩像は

平和観音と命名され、大本山永平寺

貫首福山諦法禅師の揮毫による平

和の文字が刻まれております。平和

観音にお参りする遊歩道には橋を架

け、新たに修景造園工事を施し、し

だれ桜やもみじなど多くの樹木が

植樹されました。

これらの記念事業並びに記念行

事を無事円成することができまし

たのは、檀信徒及び当山有縁の皆様

のご法愛の賜と深く感謝いたして

おります。

今年から次の百年に向け新たな

一步を踏み出した禅昌寺でありま

すが、日本伝統仏教の理解を深め、

親しみを感じて頂けるよう更に精

進して参りたいと存じます。引続き

何卒宜しくお願い申し上げます。

禅昌寺住職 横山泰賢 合掌



和 平





禅昌寺開創四〇〇年

慶讃記念事業の回想

実行委員会会長 中山俊郎

「道心」読者の皆様には二〇一六年の新春を安穩に迎えられたことと思います。

昨年十二月二〇一五年を表す漢字は「安」でした。色々理由が述べられていましたが、本年も「安」穩に過したいものです。

さて、昨年四月十八日禅昌寺開創四〇〇年記念行事も晴天に恵まれ各行事が予定通り無事円成することが出来ました。檀信徒の皆様には改めて厚くお礼申し上げます。思い起こせば早や十ヶ月になります。

永平寺貫首福山諦法禅師様の拝請

平成二十六年十月方丈さんを始め責任役員の皆様と共に永平寺に参籠、翌朝不老閣に赴むき福山諦法禅師様と対面し趣意を申し上げました。禅師様より「謹しんでお引受けいたします」とのお言葉を頂き大変感謝致しました。

禅昌寺開創四〇〇年慶讃記念事業の協力金

平成二十二年十月禅昌寺第二十三世退薫。第二十四世晋山記念事業があり、当時奉賛会が結成され檀信徒の皆様には多額の寄付金を納めて頂きました。此の後又寄付金をお願いするのは大変心苦しく、協議の結果記今事業である観世音菩薩立像の建立と関連遊歩道整備のお施主様になって頂き、ご協力金を納めて頂くことになりました。昨年六月会計報告とお礼の文書をお送りいたしました通り、檀信徒の皆様には多くの方にお施主様になって頂き予定以上のご協力金を納めて頂きました。

禅昌寺開創四〇〇年慶讃記念行事

昨年四月十八日記念行事当日は前述の通り又とない天候に恵まれ、平和観音菩薩の開眼法要から始まり、永平寺貫



福山禅師ご到着



平和観音開眼法要



記念撮影、1列正面福山禅師、2列正面高瀬総代長、右隣中山会長



平和観音全体像



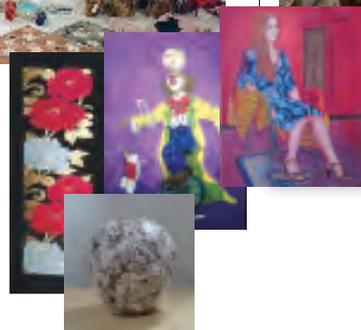
福山禅師因脈会御垂示



感謝状贈呈式



記念行事として、檀信徒の皆さんによる趣味の作品展や記念コンサートが行われた。



首福山諦法禅師様による開創四〇〇年記念お祝の法要が厳肅に取り行われ、禅師様より有難いお言葉を賜りました。その後感謝状の贈呈式、因脈会、記念撮影、祝齋、緑日等回想は尽きませんが、夕方からの記念コンサートで全ての行事を終えることが出来ました。誠に有難うございました。

紀年法と暦法に学ぶ



今年(2016年)は西暦による2016年となりますが、西暦とは、皆さんご承知のように、イエス・キリストが生まれた翌年を元年とする紀年法で、一宗教に基づいた紀年法が世界で最も広く使われていることに注目すべきでしょう。

普段私たちはあまり意識していませんが、紀年法、暦法には左ページのように様々あります。

メソポタミア文明をはじめ紀元前2000年という古来よりエジプトを除くユーラシアでは、太陰太陽暦が使われていました。それは、人が農耕を中心として暮らすために季節を認識することが必要不可欠だったからでしょう。

また、中国においては古来より太陰太陽暦を利用しつつも、二十四節気をもうけ一年を24に分け、更に季節を明確にした生活が根付いていました。農耕を中心にするための工夫といえるでしょう。

古代エジプトでも農耕が行われていたことはご承知のことと思いますが、古くは1年360日という変則的な太陰暦が使われていたと考えられています。しかし紀元前3500年頃に灌漑が始まり、ナイル川の氾濫による農作物の被害に悩まされ、その氾濫の時期を正確に知るため、のちに太陽暦(実際には太陰暦との二重構造になっていたエジプト暦)が使われるようになったとのこと。

これら、農耕に根ざした生活を中心とした人々とは対照的に、現在中東と呼ばれる地域では砂漠の中で生きていくために必要な教えからイスラム教が起り、生命を維持するために最も必要とされた月の運行が重要視されました。

砂漠では農耕は出来ませんし、自分達の所在地じたいも月の運行や星をみて把握するより他に方法が無いのです。そうした過酷な環境で生きるための教えとして起こったのがイスラム教です。ですから否が応でも厳しく絶対的なものに成ら

ざるを得なかったのだと思いますが、現在も尚太陰暦を利用しているのはそれがイスラム圏の人々の生活に根ざしているからでしょう。

さて、古代ローマでは、極めて大雑把な太陰暦が使われていたようですが、後に太陰太陽暦の形が整えられました。しかし、共和制であった古代ローマの政治家の都合で閏日が挿入されたりされなかつたりしました。

このため暦の上の日付と季節がまったく合致しなくなり、末期には90日ずれが生じていたそうです。しかし、ユリウス・カエサルがエジプトを征服した紀元前46年にエジプト暦を改良し、紀元前45年からユリウス暦(太陽暦)が採用されるようになりました。このときから古代ローマでは月の動きを完全に暦法から排除しました。このユリウス暦は実際の1太陽年に比べて0.0078日長く計算されていたため、約128年で1日分だけ早まることになり、16世紀末には10日もずれが生じていました。そのため、1582年ローマ教皇グレゴリウス13世がユリウス暦を改良してグレゴリオ暦が制定されました。そして、このグレゴリオ暦(西暦)が今日最も広く世界で利用されているのです。

それは、農耕民族にとっても狩猟民族にとっても四季を容易に把握することが出来、人間の煩悩を極力差し挟むことを避けることが出来る最も合理的な暦法で



あるからだと思うのです。

更に、紀年法についてもアジアの多くの国では仏暦が、中東ではイスラム暦が、そして日本では和暦がそれぞれ西暦（グレゴリオ暦）と共に併用され、現在に至っても尚その文化的・宗教的背景を失うことなく継承されており、それぞれの地域とその地域の人々を理解する上で大変重

要な要素となつていゝのです。

いずれにせよ、世界の暦とその歴史から、私たち人類は大自然と共にこの大宇宙に生かされているということを改めて認識することが出来るのです。

人間は海からあがつてきた脊椎動物が進化して人になつたといわれているように、潮の満ち引き、月の満ち欠けが人間

紀年法	今年の暦	何を紀元としているか
西暦	2016年	イエス・キリストが生まれた翌年を元年とする
ヒジュラ暦	1437年	イスラム暦、予言者ムハマドがマッカからマディーナへ聖遷（ヒジュラ）した年を元年とする
仏暦	2560年	お釈迦様入滅の年（又はその翌年）を元年とする
皇紀	2676年	神武天皇の即位紀元を元年とする
和暦	平成28年	元号の改元によつて年を表現する日本独自の紀年法

暦法	由来
太陰暦	月の満ち欠けの周期を基にした暦法。その周期はほぼ一定で、平成27年時点では29.530589日となり、これに12ヶ月を掛けると354.36707日となるため、29日の月と30日の月を各6回ずつ設け1年を354日としている。しかし、この計算では3年で30日以上の誤差が出るため、例えばヒジュラ暦では30年間に11回閏日を設け、補正している。また、地球が太陽の周りを回る公転周期（凡そ365日）より1年が11日短いことから、特定の月日の季節は、その年により変動し、約8年で四季一つぶん早くなる。ラマダンなど月の運行に合わせて祭事が行われるイスラム教国で主に利用されている
太陰太陽暦	太陰暦を基本としつつも、3年に一回閏月を挿入して実際の季節とのずれを補正した暦法。日本の旧暦は太陰太陽暦による暦法である
太陽暦	地球が太陽の周りを回る周期を基にした暦法で、1周期は365.24219日となり、1年を365日とし、4年に1日以上のずれが生じるため4年に一度閏日を設けて、そのずれを補正している。現在日本で利用されている西暦はこの太陽暦であり、ローマ教皇グレゴリウス13世が制定したグレゴリオ暦である

※紀年法と暦法に関する内容はウイキペディアによる説明を簡単にまとめたものです。

の体のリズムに大きく影響していることが解つています。実際に満月の日には交通事故が多発するというデータもあり、大潮の日にお亡くなりになる方が多いのも事実です。また、人を含む脊椎動物の生命のリズムは、月の公転時間の影響を受けた24時間のリズムで体内時計（脳）に刻まれており、日光の刺激により細胞や遺伝子、神経に到るまで様々な影響を与えていることが解つています。いつもより遅い時間まで眠ると、その分遅い時間に眠くなるというように、生活の仕方でそのリズムが変わつてしまうのも脳に刻まれた体内時計の働きです。

こうして私たち人間は、月や太陽、大宇宙の影響を受けて刻まれた生命のリズムにより生かされているのです。しかし、近代化が進んだ現代では、電気製品などの発達により太陽の光だけではなく、照明器具やテレビ、コンピューターといった光を放つ器具を日常的に使用しているため、視覚から不規則な光の影響を受けることにより、生命のバランスが崩れ、私たちの心身に様々な障害をもたらしていることも否めません。

古来より私たちは大自然と共にこの大宇宙に生かされているということを忘れることなく、現代文明に振りまわされ過ぎない生活を心がけることが大切だと改めて思うのです。

禅昌泰賢 合掌 完

初春に寄せて

尾崎放哉と種田山頭火

東区 矢野淑子

新しき 年の始めの 初春の

今日降る雪の いや重け吉事

—大伴家持—

現存最古の歌集として、万葉集に収められている、最後を飾るのが、この大伴家持（718年頃〜785年）の右の歌。

この歌は、家持が因幡国に左遷され失意の中で迎えた、759年の元旦、目を覚ますと、木々、建物、田んぼ、全て雪に覆われている。家持は雪を眺め、今年も、どうか吉事が重なる良い年であるよう、願いを込めて、この歌を詠んだとされています。

（初春の雪は、古来吉兆の知らせとされている）

何となく、今年も良い事、あることし

元旦の朝 晴れて風なし

—詩人 石川啄木—

二十代半ば、啄木は苦しい生活だった。折角、得た仕事も休みがちになり、不如意の日々。それでも、正月の穏やかさに、喜びを感じ、ちょっとした事にも、希望を見いだそうとする、詩人の心の在り方と、心の豊かさを、見ることが出来ます。

尾崎放哉（明治十八年・一月二〇日生）

現（鳥取市吉方町）出身。

東京帝国大学法科・政治学科卒業

大正十四年・四〇才、井泉水の京都東山の橋畔亭に同居。その後、小豆島に旅立つ。大正十五年・四十一才「入庵雑誌」等の記載を始めるが、左湿性肋膜炎が悪化。四月七日、小豆島土庄町・西光寺で死去。

種田山頭火（明治十五年・十二月三日生）

現（防府市八王子市）出身。

早稲田大学文学部に、第一回生として入学、明治四十四年、郷土文芸誌「青年」に、参加山頭火の雅号で、ツルゲーネーフの翻訳、その他を発表する。

大正十四年・四十三才、報恩寺（曹洞宗）

に出家と得度し、耕畝と改名。

大正十五年（昭和元年）、四十四才、山林

独旅が始まる。

昭和十五年十月十一日 五十八才死去。

* 両者とも、独りぼっちの生活の中から定型俳句を越え、独特の自由律句

により染み入る孤独を表現し、破天荒に生きた生活、文学、思想が彷彿とする句が、伺えます。

彷彿ありありと思ひ浮かぶ様子（仏語）

【放哉の抜粋句】

代表句

咳をしても一人

たった一人に
なり切つて夕空
山に登れば
村がみんな見える

一つ湯呑を置いて
むせている
犬よちぎれる程
尾をふつてくる

わがからだ焚火に
うらおもてあぶる
つめたい風に耳
二つかたくついている

つくづく淋しい我が影よ動かしてみる

【山頭火の抜粋句】

代表句

分け入っても

分け入っても 青い山

笠にとんぼを
とまらせて歩く
雨だれの音も
年をとった

泊めてくれない
村の時雨を歩く
後ろすがたの
時雨でゆくか

とほざかる
後ろ姿の夕やけ
酒飲べば涙なが
るるおろかな秋

年をとれば故郷こいしい つくつくぼうし

高齢化社会に於て、淋しい生活に落ち入っても、この句の様に物事を見つめる事が出来たら、幸いです。



ミラノ国際博覧会について

昨年5月1日から10月31日までミラノ万博がイタリア共和国ミラノ市で開催されました。「地球の食料を、生命のエネルギーを」という「食」をテーマにした万博で、世界各国の食文化や伝統が紹介されました。また、食料の大量廃棄や持続的な食料供給をするために自然破壊が進んでいることなど、総合的には将来の地球のために何が必要なのか多くの課題を伝えていました。

廃棄しているのです。

国連主催のパビリオンゼロでは、「古来より人間が生きていくのに何をしてきたか、そして今どうなっているのか」という食の歴史が良く理解できるよう工夫をこらした展示や映像が紹介されていました。

こうした食糧事情とその矛盾に強い衝撃を受け、ネットでは日本の食糧事情を調べてみると、なんと日本は食料廃棄率が世界第1位か第2位という自慢できない状況でした。年間5500万トンの食料を輸入し、1800万トンの食料を廃棄しているというのです。その内1000万

トンが家庭で捨てられた食料だそうです。最近、廃棄食品転売事件などもありましたが、食料に対する私たちの認識が問われているのです。

スローフード館(スローフード協会)
イタリアには1987年にスローフード協会が設立され、スローフードの発祥の地としても知られています。スローフード協会の設立は、マクドナルドのイタリア出店への反対が発端といわれていますが、スローフードとはつまりファーストフードのように、素早く大量に生産される食料品ではなく、小規模でも無農薬で丁寧に時間を掛け人間の体のことを考えて作られる食材や食品のことです。実際に無農薬で少量多品種の生産が可能であることや、大量生産される穀物が自然破壊に繋がっている実情、食肉に使われる家畜

が成長ホルモン剤を投与され急激に太らされている実体などが、パネルを使って紹介されていました。

特に、食品としてだけでなく、飼料として世界中で利用されているトウモロコシの生産が問題になっているようです。トウモロコシは近年バイオ燃料としても注目されるようになり、アメリカではガソリンスタンドにバイオエタノールとガソリンを混合した燃料が普通に売られているほどです。この為、ブラジルではアマゾンの森林がトウモロコシ農場として開発され生態系に大きな影響を与えているのです。

この館を訪れ本来人間が生きていくために必要とされていた食物や食肉が、利益至上主義の道具と化しているということを強く感じました。同時にそれは、地球で生命を維持するために必要な大自然の破壊に繋がっているのです。

こうした食糧問題とは逆に、近年ヨーロッパでは廃棄されるべき食物を利用して丁寧に作られた食事を提供するレストランが話題を呼んでいます。安価に食糧問題に貢献できるユニークな方法だと感じました。

アメリカ館

アメリカ館は、この万博で待ち時間無く簡単に入れる唯一といってもよいパビリオンでした。その内容は、スローフードの真逆で、将来の地球のために90億人分の食料を確保するという目標の下、遺伝子組み換えが将来の食にとつて重要だとするものでした。そのため、大農場で大量に生産されている穀物や大量に飼育



坐禅解説

パビリオンゼロ(国連館)
現在世界中で1年間に1500万人以上の方が飢餓で亡くなっています。そのうち七割は子供だそうです。世界の穀物生産量は24億トン、この量は世界中の人々が生きていく上で必要な量のおよそ2倍にあたります。私たち人類は、飢餓で苦しみ亡くなっている人が毎日3万人から4万人世界中にいます。この3割以上を

要以上の食料を生産しているというのに、必要以上の食料を生産し、その3割以上を



ミラノ万博・日本館前にて

されている牛の写真が載ったパネルなどが展示しており、ファーストフードを推奨するような展示も目立ちました。

また、この大量生産、大量消費の構造はアメリカの農家を豊にするかもしれないが、穀物生産量トップクラスのアメリカが世界に与える影響は大きく、例えばアメリカのトウモロコシの生産量が世界中の食肉の値段にまで影響しているのです。つまり世界中の多くの国々が家畜の飼料としてアメリカのトウモロコシを輸入しているということです。因みに日本でもトウモロコシや大豆の90%はアメリカから輸入されています。

食をテーマにしたこの万博におけるアメリカ館の不人気ぶりが、将来の食について物語っているように感じました。

日本館

日本館は「共存する多様性」をテーマに食材と自然が調和している日本の食文化が紹介されており、自然と技術の「調和」という点が評価され、展示デザイン部門で金賞を受賞しました。万博開催中日本館への来場者は228万人で、140ヶ国が参加していたこの万博では群を抜いた人気を集めていました。万博後半の10月は、平日で4時間から6時間、週末ともなると6時間から8時間の待ち時間という状況で、10月24日には待ち時間10時間という看板が出ていたほどです。

実はこの10月24日(土)、私は日本館のイベントスタッフとして万博会場にいました。それは、福井県が「禅と精進料理の福井」をテーマとして、10月24日から27日までイベントを行っていたからです。

この福井県のイベントに大本山永平寺も協力しており、私は御本山の非常勤講師として派遣されていたのです。

福井県のお米、日本酒、昆布、胡麻豆腐、和紙、漆器、打ち刃物など様々な物産が日本館のイベントステージで来館者に紹介されました。特に福井県の観光資源であり、世界中から禅の聖地と目されている永平寺を紹介するにあたっては、観光資源としてだけでなく禅や精進料理の意味が伝わるイベントとして、坐禅体験が一日三回、精進料理の実演が一日二回行われました。

既に世界語になっている「禅」の言葉に引かれたのか、開催初日の24日には待ち時間10時間の長蛇の列が日本館を取り囲み、西洋の人々の日本文化への憧れと興味の大きさに驚かされました。同時に西洋の人々の期待に込められるだけの日本人であるかどうか問われるような緊張感を味わいました。

坐禅体験では、お釈迦様から道元禅師に到るまで、曹洞禅の歴史や意味、そして今なおその坐禅が実践され日本人の生活習慣に禅の教えが活かされていること等が説明され、来場者にも数分間の坐禅を体験して頂きました。

また、精進料理の実演では、精進の意味と料理を作ること自体が大切な禅の修行であり、その教えと実践は生活全般に通ずるものであることが説明され、胡麻豆腐の作り方が実演されました。来場者にも胡麻豆腐が配られ、初めて味わう食感に舌鼓を打っていました。

大本山永平寺からは、代表として布教部長の渡辺宣昭老師、臨時典座として元

大本山永平寺典座(料理長)の二瓶法道老師、そして私が臨時講師として派遣されました。また、二瓶老師のアシスタントとして静岡県龍雲寺徒弟村松龍樹師が参加され、現地スタッフとしてイタリヤ普伝寺のグワレスキー泰天住職他5名の現地人僧侶にもお手伝いを頂きました。

私たちが行ったイベントでの説明の一部をここで皆様にもご紹介いたします。

坐禅体験解説より抜粋

普段私たちは、この身体を使った行動やこの口でしゃべった内容、心に思い浮かべた事などが原因となつて、何らかの結果を私たちの人生にもたらしています。これを因果応報といっています。しかし、私たちが坐禅の実践をしているとき、この身体は足を組み、手は法界定印(印を結び)、背筋を伸ばし、目は半眼、正身端坐の姿勢です。また口は黙って何もしゃべらず閉じています。心には様々な思いが浮かんできてもこれを追わず払わず相手にしません。ほっておくと自然に消えてなくなる。この繰り返しです。つまり坐禅を組んでいるという事実以外何もしていないのです。そしてその坐禅がお釈迦様の菩提樹下の坐禅と何ら変わることはない、正伝の仏法としての坐禅であり、仏の実践であります。……………

私たちの肉体は、臓器から細胞に至るまで私たちの思い通りにはなりません。この臓器や細胞はこの大宇宙の一部として大自然の力により動かされています。しかし、人間には脳の働きがあり、この頭であこれと考へ、悩み苦しみます。そうした思い



坐禅紹介

の作法を書物としてまとめられております。そしてそれが、この度皆様にご紹介している日本の伝統文化と食、また今日日本で行われている生活習慣の礎となっているのです。

精進料理実演解説より抜粋

道元禅師は、典座（料理長）のお役だけではなく禅の修行道場で責任のある役職に就く僧侶の心構えとして喜心、老心、大心という三心の教えを示しておられます。

● 喜心とは、人間として生まれ、（お釈迦様の教えに出会い、仏道を志す）人々のお役に立てることを喜ぶ心です。

に振り回されることなく、生命の食物としての（大宇宙に生かされている）本来の自己に気づき、一刻一刻と移り行く無常の現実としつかりと向き合いながら生きていく、これが禅の生き方です。ですから道元禅師は24時間の営みすべてが禅の修行であると説かれ、坐禅は基より洗面歯磨き、食事の作り方、就寝の方法に至るまで、すべて



精進料理実演

● 老心とは、父母の心であり、親は自らの貧富を顧みず、吾子の成長を願い、子が寒ければ着物を脱いで子に着せ、暑ければ陰をつくってやるというような親の心です。
● 大心とは、その心を大山や大海のように大きく持ち、偏ることなくへつらうことのない、分別を超えた心のことです。そして、この三心はそれぞれが独立した三つの心ではなく、父母の心をもって物事に接し、それを自らの喜びとし、大きな心で偏ることなくへつらうことのないよう精進しなさいという大切なお示しです。
最後に精進料理を食べる側の心構えについてご紹介いたします。
このことについて、道元禅師は「赴粥飯法」という書物の中で次の五つの教えを示されております。

一つには巧の多少を計り彼の来所を量る。
● この食事ができるまでに関わった人々や私たちと同じ平等な命である自然の恵、食材に思いをはせます。

二つには己が徳行の全欠を付って供に応ず。
● 今日一日、自分が行うべきことをちゃんと（正しく）行ったかを省み、いたらなかったところを補うためにも食事をいただきます。
三つには心を防ぎ過を離るることは貧等を宗とす。
● 「おいしいからたくさん食べる、おいしくないからあまり食べない」というような執着を離れ、貪りの心に注意し、どのようなものも心穏やかにいただきます。
四つには正に良薬を事とするは形枯を療ぜんが為なり。
● 空腹を満たすためだけではなく、腹八分目を心掛け、心身を養う薬としていただきます。
五つには成道の為の故にいまこの食を受く。
● 社会や家族に一生懸命つくすために、いまこの食事をいただきます。

永平寺ではこの五つの教えを「五観の偈」として、毎日食事を頂く前にお唱えし、感謝の気持ちをお忘れず自らを振り返る大切な修行としてお食事をいただくのです。（以上、福井県イベントにおける解説より抜粋）
この万博で学んだことは、利益を上げ、経済を成長させ、簡単に便利にすることが、人類にとっての本当の豊かさではないということでした。この度、日本館が金賞を受賞し群を抜いた人気を集めていたのは、伝統的な和食と禅の教えを礎とした日本の文化や習慣に、本当の豊かさの答えがあるからだと感じました。

横山泰賢 合掌

◆行事報告◆

(平成二十七年一月～二十八年一月)

- 開創四百年記念慶讃法要
 - ・四月十八日(土) 午前十時より
大本山永平寺貫首福山諦法禪師をお迎えし、大法会を行い、約二五〇名の檀信徒の皆様が参加されました。当日は豚汁やお茶席、飲物やゲームコーナーなどの縁日も開催され、大変賑わいました。また、夜にはツケメンのコンサートが行われ、これも二二〇名を超える来場があり、大変盛り上がりました。ご協力いただいた皆様のお蔭をもちまして大変充実した四〇〇年の記念行事を行うことができ、感謝いたしております。
- お盆前諸堂大掃除
 - ・七月二十六日(日) 午前十時より
三〇名程のご奉仕により一時間半で終わりました。ご奉仕の皆様お疲れ様でした。
 - 孟蘭盆会法要
 - ・八月六日(木) 午前十時半より
例年同様約百五〇名の参拝者で賑わいました。
 - 青山俊董老師講演会
 - ・九月三十日(水)
正法眼蔵生死巻の御提唱
七〇名ほどの参加者があり、大変分かり易い老師のお話を聞き、皆が法悦に浸りました。
 - お月見コンサート
 - ・十月三日(土) 午後六時半より
今年、大代啓一先生のお力添えにより、RCCテレビ番組「元就」に元就公の声として出演しておられる高尾六平さんをお迎えすることが出来ました。高尾さんは舞台やテレビ、ラジオなど様々な分野で活躍しておられ、歎異抄の朗読などを通して広島仏教界でも著名な方です。大代先生のフルートと河越先生のピアノのコラボレーションは来場者に深い感動を与えてくれました。
 - 臘八摂心坐禅会
 - ・十二月一日(火)～八日(火)
例年通り坐禅会の皆さんと共に坐らせていただき、誠に有り難い摂心でした。
 - 年末諸堂大掃除
 - ・十二月六日(日) 午後一時より
二十五名程のご奉仕により一時間ほどで終わりました。また、この日護国寺役員様と霊園運営委員の皆様にお集まりいただき、霊園墓地の名義人に関する確認作業も合わせて行われました。ご奉仕の皆様お疲れ様でした。
 - 平成二十八年年頭坐禅会
 - ・正月元旦 午前八時より
七名の参加者があり、清々しい年頭となりました。
 - 新年修正会(新年御祈祷会)
 - ・正月元旦 午前十時より
今年のお正月は暖かく大勢の参拝者で賑わい、家内安全、災障消除、諸縁吉祥をお祈りいたしました。
 - 青山俊董老師 講演会
 - ・二月二十八日(日)
正法眼蔵生死巻の御提唱
午前の部 十時半～十二時
午後の部 一時半～三時
 - 彼岸会法要・護持会総会
 - ・三月十七日(木) 午前十時半より
例年通り、彼岸会法要、引き続き護持会総会を開催いたします。
 - お盆前諸堂大掃除
 - ・七月三十一日(日) 午前十時より
お子さんお孫さんとご一緒にご参加下さい。二時間ほどで終わります。
 - 孟蘭盆会法要
 - ・八月六日(土) 午前十時半より
 - 青山俊董老師講演会
 - ・九月三十日(金)
正法眼蔵生死巻の御提唱
午前の部 十時半～十二時
午後の部 一時半～三時
 - お月見コンサート
 - ・十月一日(土)～予定
*現在、内容や日程について調整中。
 - 臘八摂心坐禅会
 - ・十二月一日(木)～八日(木)
 - 年末諸堂大掃除
 - ・十二月四日(日) 午後一時より
お子さんお孫さんとご一緒にご参加下さい。二時間ほどで終わります。
 - 年頭坐禅会
 - ・正月元旦 午前八時より
五名程度の参加者でしたが、清々しい念頭となりました。
 - 新年修正会(大般若祈祷会)
 - ・正月元旦 午前十時より
厳しい冷え込みの中、大勢の参拝者で賑わい、家内安全、災障消除、諸縁吉祥をお祈りいたしました。
 - 青山俊董老師講演会
 - ・二月二十八日(土)
正法眼蔵四摂法巻の御提唱
七〇名ほどの参加者があり、皆さんと共に法悦に浸りました。
 - 彼岸会法要・護持会総会
 - ・三月十七日(火) 午前十時半より
百五〇名ほどの参拝者があり、例年通り彼岸会法要、引き続き護持会総会が開催されました。
 - 開創四百年記念「趣味の作品展」
 - ・四月十一日(土)～十八日(土)
四〇〇年を記念して檀信徒の方々が制作された作品の展示会を開催し、二四五名の来場者がありました。特に近隣住民の皆さんにとって禅昌寺を身近に感じてもらえる良い機会となりました。ご協力いただいた皆様大変有難うございました。

◆行事案内◆

(平成二十八年二月～十二月)